

「開国博Y150通信」(第3号)
～ 市民参加イベント特集～



- ◆ 横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」では、『海』、『街』、『自然』が生きる横浜の3つのエリアで未来への「出航」をテーマに、その歴史や魅力が満載の大博覧会を繰り広げます。
- ◆ いよいよ開幕まで4ヶ月余になり、ますます盛り上がるために、「開国博Y150」という愛称を設定しました。
- ◆ 150年前の「開国」により近代化した横浜が、再び未来を切り拓くリード役となる意味を分かりやすく表現するとともに、横浜の市街地の広域で行う、新しい形の都市博覧会であることをアピールしています。
- ◆ ベイサイドエリア(みなとみらい21新港地区周辺)は、横浜の原点でもある海と港の景観の中に、大型エンターテインメント展示、大型映像、催事会場などを多彩に展開。夜間は華やかなナイトショーやライトアップが賑わいを演出します。
- ◆ ヒルサイドエリア(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)では、豊かな自然の中に子供から大人までが集まり、ワークショップをはじめとする様々な市民創発プログラムを展開します。
- ◆ マザーポートエリア(横浜駅周辺～山下・山手地区)では、横浜の繁華街と商店街が連携し、「横浜回遊ルートマップ」など街全体が活気に溢れます。



平成20年12月19日
財団法人横浜開港150周年協会 広報・宣伝部 統括部長 阿部 龍浩
電話：045-222-1508

「Y150市民参加プラットフォーム」が立ち上がりました！

「開国博Y150」には、さまざまな市民参加を実現させるため、多彩なテーマのプロジェクトがあります。2009年の横浜開港150周年に「自分で何か企画したい」、「少しでも開港150周年の節目に関わりたい」という市民の方々へY150の多様な市民参加の情報と参加の機会を「わかりやすく」「一元的に」提供する「Y150市民参加プラットフォーム」を立ち上げました。また、市民参加ポータルウェブサイトなどを通じて、最新情報を積極的に配信します。

多様な市民参加が、リアルタイムで進行し、拡大しています。

1日限りの短期間の参加から、数ヶ月におよぶ参加まで。気軽に何かを手伝って頂くような参加から、自らプロジェクトを立ち上げるような参加まで。ひとりひとりのスタイルにあわせられる、多様な市民参加があります。



Y150市民参加プラットフォームについて

「Y150市民参加プラットフォーム」とは、2009年の横浜開港150周年に関わりたいと願う市民の方々に、Y150の多様な市民参加の情報と参加の機会を「わかりやすく」「一元的に」提供する仕組みです。運営主体はY150市民参加プラットフォーム推進委員会と財団法人横浜開港150周年協会です。

市民参加プロジェクトの紹介や市民参加事業の募集案内などを「Y150市民参加プラットフォーム窓口」で行い、「Y150市民参加ポータルサイト」でも各市民参加の詳細を紹介しています。

<「Y150市民参加ポータルサイト」について>

市民参加プロジェクトに関わる情報を一元的に提供していきます。
市民参加事業の紹介や募集情報を入手できます。



「Y150市民参加プラットフォーム窓口」

電話 045-489-4767(平日10:00~17:00)

FAX 045-489-4767

「Y150市民参加ポータルサイト」

ホームページ・・・<http://www.yokohama150.jp/>

「ヒルサイド・Y150つながりの森」 150を超えるプロジェクトが仲間を募集中！

市民創発プロジェクトを一緒に創り上げませんか。

ヒルサイド・Y150つながりの森で展開する市民創発プロジェクトは、「私からはじめるこれからの150年」を参加テーマに、市民ひとりひとりが持続可能な社会を目指してプロジェクトを立ち上げ、練り上げ、創造し、発信するという新しい市民参加スタイルのイベントです。そして、ヒルサイド・Y150つながりの森の会期終了後も持続する活動を目指しています。

横浜市民を中心に公募により集まった308人でスタートした市民創発プロジェクトは、旭区の旧若葉台西中学校校舎を使って2008年1月から始まった創発支援プログラムにより、様々なカタチの「対話・参加・体験できるプロジェクト」が検討され、現在150を超えるプロジェクトが誕生しました。

今、これらのプロジェクトでは、プロジェクトリーダーを中心にプロジェクトを一緒に作り上げ、ヒルサイドに一緒に出展するプロジェクトサポートを募集しています。ヒルサイド・Y150つながりの森へは、このプロジェクトサポートになることを通じて、今から参加していただくことが可能です。



【プロジェクトサポート募集内容】（一部）

- ★**土木のお祭り2009-見よ!土木の誇り-**…横浜の港や街を創り続けているのは土木です。
⇒主役となる土木のプロの方々、土木の誇りを見せましょう！
- ★**創ろう！横浜ブルーセイルズ!!**…新たな横浜のシンボル＆コミュニティの場としてプロバスケットチームを。
⇒一緒に横浜に「新たなスポーツ文化」を創りましょう！
- ★**「コスプレ」の素敵な使い方♪**…国際交流、福祉、現代芸術文化などコスプレは様々な可能性があります。
⇒興味があり、協働できそうな方は是非！
- ★**谷戸の暮らし野外ミュージアム・設立準備室**…横浜内陸部の里山の、自然と人の関わり、保全のために。
⇒生き物調査、湿地再生、自然観察会など、できる形で参加を！
- ★**金沢の風景アンテナショップ**…素敵な風景がたくさんある金沢区の紹介を通して、郷土を振り返ります。
⇒金沢の街を愛する皆さん、街の良さを一緒に再発見し広めて生きましょう！
- ★**世界とつながる！国際協力WEEK**…世界とつながりの深い横浜。そこに住む私たちができることは。
⇒広く市民ボランティアを募集。同じ企画を持つ方たちも一緒に！
- ★**横浜文化座**…開港当時「芝居小屋」は娯楽の場だけでなく、社交場であり、情報発信の場でした。
⇒日本伝統文化に関心のある方、横浜の師匠方、お待ちしております！
- ★**茶堂(ちゃどう)プロジェクト**…木の香る伝統的な日本のコミュニティ文化施設＆コミュニケーション装置の「茶堂」が出現します。
⇒茶堂での接待・諸芸・語り・遊びなどをする方、募集します！
- ★**とりかえっこしましょチャ×3**…同じでないと浮いてしまうと思っている高校生世代の力を引き出したい。
⇒言葉を使った出会いのゲームづくりを通して世代ギャップを超えませんか！（*チャ×3=チャチャチャ）

*ヒルサイド・Y150つながりの森のホームページ(<http://hill.yokohama150.jp/>)で、プロジェクトの一覧が見られます。各プロジェクトの名称、概要、それぞれのプロジェクトサポート募集のコメントを参考に、参加してみたいプロジェクトが選べます。

「Y150公式ホームページオープン！」

来年4月28日の開幕まであと5ヶ月となりました。多くの方に知っていただくために、11月19日、横浜開港150周年テーマイベント(開国博Y150)の公式サイトをオープンしました。各イベントの紹介や、見どころ、チケットの買い方など、開国博Y150の関連情報が満載です。イベントをより楽しむために役立つ情報を、継続して発信します。会期中には、イベントの盛り上がりを感じられるようなコンテンツを拡充していくことを計画しています。

新ホームページアドレス：http://www.yokohama150.org

【このサイトの特徴】

- ・イベントの見どころを視覚的にわかりやすく訴求し、各コンテンツへナビゲートできるインターフェース
- ・ユーザーのアクションで、たねまるが画面上を動きまわる新しいアイテム登場
- ・イベントをより深く楽しんでもらうために、横浜にまつわる歴史の豆知識やイベント関連情報などをたねまるがレポートする「たねまるチャンネル」を用意

*なお、従来のホームページも「横浜開港150周年協会サイト」(アドレス<http://www.yokohama150.org/y150/>)として引き続きアクセスできます。



グッズ情報

～「たねまる」の心温まる、感動ストーリー！～ 横浜開港150周年オフィシャル絵本『ともだちのたね』 12月5日(金)発売

『ともだちのたね』は、横浜の街をずっと見守ってきたタマクスの木の精である、オフィシャルキャラクター「たねまる」をモチーフとした絵本です。

ひとりぼっちの「たねまる」が、タマクスの木のおじいさんから教わる“ともだちのたね”を軸に、ストーリーが展開します。心温まる、ほのぼのとした内容です。



- 【作品名】 『ともだちのたね』／東京地図出版株式会社
- 【版型】 A4変形
- 【ページ】 32ページ／オールカラー
- 【価格】 ¥1,370(税込)
- 【販売箇所】 神奈川県内の「たねまる」グッズ販売店舗

* 詳細は「たねまるドットコム」(<http://www.tanemaru.com/>)を参照

- 【問い合わせ先】 横浜開港150周年マスターライセンスオフィス
TEL:045-489-4472

～ 横浜開港150周年を祝う、市民参加型「港の祝祭イベント」～ キャンドルカフェ2008

【展開期間】 12月20日(土)・21日(日)・22日(月)・23日(火・祝)
キャンドル点灯時間 16:00～21:00
※ドリーミングシート記入受付は16:00～20:30

【会場】 ナビオス横浜／運河パーク
2009年の横浜開港150周年をキャンドルの灯りで祝う市民参加型のキャンドルイベント。今年で3回目を迎え、去年は約22万人の方が参加。ご家族や恋人、大切な方とともにキャンドルに飾るドリーミングシートにメッセージを書き込み、自分の手で点灯できます。キャンドルに想いを込めて、小さな灯りの灯るやすらぎの時間を楽しめます。



©Kazumi Hirayama

【問い合わせ先】「横濱・開港キャンドルカフェ150」実行委員会事務局
TEL: 045-227-7390 (平日9:30～17:30)

横濱開港キャンドルカフェ カウントダウンY150

【展開時期】 2008年12月31日(水)21:00～1月1日(祝・木)1:00
※上記の時間は変更になる場合があります。

【会場】 横浜赤レンガ倉庫

【内容】 暖かなキャンドルの灯りによる開港イルミネーションを実施。会場では願いごとや記念の言葉を書いた「マイ・キャンドル」点灯もできる。
ハート型の煌くキャンドルの前での記念撮影も大人気です。



©Shigeyuki Ohba

【問い合わせ先】財団法人横浜開港150周年協会 広報・宣伝部
TEL: 045-222-1508

DO-RA-MA YOKOHAMA 150 ～創合演劇プロジェクト～ いよいよ始動

出演だけでなく、脚本のネタ探しから舞台技術全般など、専門家の指導を受けながらすべて市民で行う、日本初の市民参加型演劇プロジェクト「DO-RA-MA YOKOHAMA 150」が2009年の横浜開港150周年に向けていよいよ始動を開始しました。

そのキックオフとして11月14日(金)、横浜市中区の「関内ホール」にて、サンバ調にアレンジした横浜市歌やダンスを公演。公演を支える出演者、「クルー」と呼ばれる総勢約500人の市民スタッフが勢ぞろいし、「横浜再発見」をテーマとしたプロジェクトの成功に向け、活動を開始しました。

「YOKOHAMA150」は来年5月から7月の期間中、横浜市内4地区でそれぞれ上演し、8月下旬には4本のドラマをオムニバス形式でまとめあげた「本公演」が行われフィナーレを迎えます。



ヒルサイド Y150つながりの森 創発市民メンバー紹介(2)

『ヒルサイド・Y150つながりの森』では、横浜市旭区の横浜動物の森公園の中、よこはま動物園ズーラシアの隣接地区で、「次世代」、「自然」、「アート」などをテーマとする150を超えるプロジェクトが展開します。『私からはじめるこれからの150年』を参加テーマに集まった市民スタッフが、2008年1月にスタートした創発支援プログラムにより、様々なカタチの『対話・参加・体験できるプロジェクト』を開発中です。今回もそのメンバーとプロジェクトを紹介します。

市民発！CSR（市民・企業の社会的責任）推進プロジェクト



吉田 英智
(よしだ ひでとも)

自分のような普通のサラリーマンが参加することに意義ありと感じ、市民創発プログラムに応募した吉田英智さん。以来、普段出会えないような幅広い世代の人々に出会えたことが楽しくて、「創発メンバーの宴会部長」を自認してプログラム後の飲み会を担当していました。宴席でいろんな人が自分のやりたいことを語るのを聞きながら、自分にも何かできることがないかと考え、リサーチ会社勤務であることから、中小企業にスポットを当てた社会貢献・CSR活動を紹介するプロジェクトを企画しました。

大手企業のCSRは知られているけど、中小企業でも地域に役立つ活動をしているところは多い。ところが、小さな企業の社会貢献活動は脚光を浴びづらいので、これを一般の方に紹介することで、中小企業にCSRに対する意識が芽生えることを願っています。

「自分が市民創発プログラムに関わることで変わっていったように、普通の人や会社が変わるためのきっかけや初めの一步となれば、自信や希望を持てる」と考えています。今まで社会のために何かしたいと思いつつも、一步を踏み出せなかったというような人、一緒にこのプロジェクトを手がけてみませんか？

KAMISHIBAIで届ける生命の賛歌 織るってこんなに楽しい



森内 直美
(もりうち なおみ)

「紙芝居は日本発祥の文化。今やKAMISHIBAIとして、世界中で親しまれているんですよ」と教えてくれたのは森内直美さん。幼い頃、ご両親が手作りの紙芝居を披露してくれて大好きになり、紙芝居とともに生きてきたと胸を張る彼女は、心をつなぐ紙芝居の会の一員として、紙芝居の優れた文化性を広めたくて市民創発プログラムに参加しました。

紙芝居といえば、昔は公園などで子どもたちが集まってきて駄菓子を食べながら観るもので、最近でこそBGMやパフォーマンスの入った大道芸のようなものもあるけど、森内さんは「大事なのは、演じる側と観る側のコミュニケーション。そのためにも、余計なものがない、優れた語りと美しい絵だけで豊かなものを伝えたい」と言っています。

テーマは「生命の賛歌」。夏場の満月の夜に産卵期を迎えるアカテガニは、三浦半島の小網代湾に生息している希少な種。このアカテガニを主人公としたお話をはじめとして、人間も動物も植物も地球に生きる仲間だということを共有できるお話をいくつか用意しています。鑑賞後は、みんなで生命について話し合ってみませんか？

土と体験、生活と食材に健康を求める



大野 英治
(おおの ひでまさ)

3年前に大阪から移住してきた大野英治さんは、新天地・横浜をとて気に入りっています。縁のある街の歴史を学んだり、人との出会いを楽しみたくて市民創発プログラムに応募しました。どんなプロジェクトにしようかと考えたとき、2年前に「歳を取ってからは、地域に関わる活動をしたい」と思って家庭菜園を始めたことから、野菜を育てる楽しみや成熟と収穫の喜びを体験するための、野菜づくりのプロジェクトを企画しました。

高齢化が進む中、ただ家に閉じこもっているよりも健康的であることから、高齢者や初心者にもできる菜園づくりをすること、さらに、環境にやさしい有機栽培で野菜を育てることで参加者と一緒に盛り上がるプロジェクトにしたいと考えています。自然の土に触れることは生涯を通して楽しめる趣味となるということ、多くの高齢者の方に知ってもらいたいと思っています。会場にある棚田・段々畑のエリアを利用して、夏にはトマトやキュウリ、9月に入ってからはずが収穫できるように準備中です。農作業に興味のある人や、地域の農家の方、指導協力をしていただける方、一緒にプロジェクトに参加してほしいそうです。

*上記以外にも、多様なメンバーにより、多くのプロジェクトが生まれています。創発メンバーやプロジェクトについてのお問い合わせは、ヒルサイド市民参加事務局までお願いします。

電話：045-662-6482(祝日を除く月～金10:00～17:00)または、E-mail: hill@yokohama150.jp

「開国博Y150」アートプロデューサー、日比野克彦さんに

「横浜FUNEプロジェクト」について聞いてみました！

2009年、横浜開港150周年を記念する様々なイベントが開催されますが、開港150年の節目にアートで何が出来ると考え、市民参加型ワークショップ「横浜FUNEプロジェクト」をプロデュースしました。このプロジェクトでは、段ボールを使って横浜港にゆかりのある実在する船を横浜市民と作っています。2007年秋から始まり、黒船や貨物船、漁船、コンテナ船、タンカーなどを作り、11月30日に100艘目のFUNEが完成。残すはあと50艘。このFUNEは実在した(する)船をモチーフとしますが、形は皆で考えます。それぞれに目的を持って横浜に寄港し、またどこかの土地へと航海。そんな船に想いをはせながらおのおの手で創り出したFUNEは、自分たちの想いを乗せ、水平線の向こう、まだ見ぬ場所へと繋がるイメージをもたらします。



日比野克彦(アートプロデューサー)

アーティスト。東京芸術大学在学中に段ボールを用いた立体作品で注目される。82年、第3回日本グラフィック展大賞、99年、毎日デザイン賞グランプリを受賞。07年、横浜開港150周年の記念テーマイベント・アートプロデューサーに起用。

私は横浜という言葉には無尽蔵の可能性があると考えます。もともと小さな漁村だった横浜は、開港後様々な国、地域から訪れる船により遠くの場所とつながり、人やものの交流を続けてきた土地。一方、おしゃれでスマートな港ヨコハマ、中華街、みなとみらい、という横浜の一部がクローズアップされ、固定されがちなイメージも感じていました。外部へのアピールにはとても有効だと思いますが、まだまだ本来横浜が持つ「創造する力」を十分に発揮していないようにも思います。横浜自体が大きな「船」であり、外から見えない部分には、コンテナや船室に色々な荷物が積み込まれているはずですし、現在もこれからも、新しい物や人が乗り込み、積み込まれ続ける・・・それが横浜という大きな町の姿だと考えます。「横浜」という響きは作り出された代名詞としてではなく、人と人が出会ったところに生まれる話の中や、ともに手を動かし制作する中から生まれ出てくるものです。

「開国博Y150」では、横浜港大さん橋国際客船ターミナルの大さん橋ホールに、150艘のFUNEを展示。150艘ものFUNEが現れた時、どんな「横浜」が見えてくるのか・・・愉しみにして下さい。また、11月末まで開催されていた横浜トリエンナーレの同時開催イベントとして、『THE SEEDS TRIP「種は船」造船プロジェクト』という市民参加ワークショップを、山下埠頭にて行いました。段ボールで作る「種は船」は、木材で枠組みを作り、段ボールで船の表面を貼り、その上にウレタン樹脂を吹付けることで、人も乗れて海に浮かぶ乗り物になります。11月29日には山下埠頭で進水式を執り行い、実際に皆さんに浮かべたところを披露することができました。快晴の青空のもと、2艘の「種は船」が海に浮かんだ瞬間、まだ見ぬ遠くの世界へ出航し、繋がったという想いがこみ上げました。



11月29日 山下埠頭にて進水式の様子

さらに、横浜を含む全国で17地域が参加している「明後日朝顔プロジェクト」があります。横浜では、よこはま動物園ズーラシアで朝顔を育成。これまで2003年に新潟の住民と育て始めてから、朝顔の種が各地に移動し、各地域の記憶や想いを運び、人と人、地域と地域、人と地域を繋げてきました。「明後日朝顔プロジェクト」を続ける中で、皆の想いを運ぶ朝顔の種が、私には船に見え、「種」のかたの船を創りたくなったのが「種は船」の始まりでした。こうして、様々なプロジェクトを横浜や各地で行い、それぞれが繋がっていくことで、自分たちや地域が新たに見えてくるのです。コミュニケーションを生み出していくのもアートの力。新しい「横浜」を横浜市民のみなさんの手で見つけてほしいと思っています。

開国博Y150 横浜歴史コラム(第3回)「中華街の歴史」

開国当時、港町横浜には世界各国の人々が訪れました。言葉が通じない外国商人たちは、日本人との仲介役として、多数の中国人を連れてきました。その数、慶応3年(1867年)には660余人、すでに欧米人の数を上回り、明治2年(1869年)には1,000人を越えていました。独立して営業する人たちも早くから存在。これらは、現在の中華街の本町通り側入口付近に位置し、ここから中華街が形成。明治10年(1877年)の記録では、すでに約500名が、この地域に集住していました。

また、中国人たちはコック、洋裁業、理髪業などのほか、両替、大工・塗装等建築関係などの仕事にも従事。今日からすると意外なことですが、初期には料理業の占める割合はごくわずかでした。明治3年(1870年)頃にはウオン・チャラーとアー・ルンという二軒のチャイニーズ・イーティング・ハウスが登場。しかしその後もさほど増えず、明治20年(1887年)中国人商店の調査によると、1番多いのは荒物業(※)の25軒、料理は4位で10軒でした。

明治27年(1884年)日清戦争が始まり、多数の中国人が帰国、横浜在住者の数も半分に激減。しかし、1900年代になると、チャイニーズ・レストランが一举に増大。日本人を対象に中国人の特技を生かせる職業として、料理が選ばれた背景があり、その結果、飲食店街としての中華街が形成されたと考えられます。こうして、横浜へ移住した中国人たちは同志たちで集まり住んで中華街を作り、現在に繋がる横浜中国人社会を築いていきました。

※荒物:家庭生活に必要な、バケツ・ざる・ほうきなどの道具類。雑貨。

＜監修＞ 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員)
＜出典＞ 横浜開港資料館「横浜もののはじめ考」(P62、63)



明治後期の中華街。
左手に聘珍樓の看板が見える。

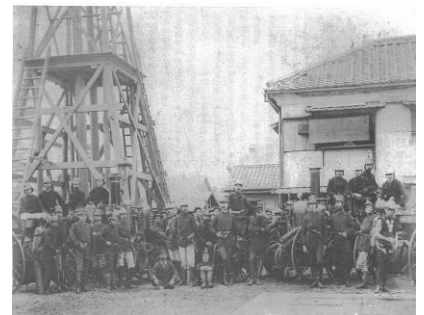
開国博Y150 横浜はじめて物語(第3回) 消防隊発祥地

1863年(文久3年)12月22日、クニフラー商会(※)で火事が発生。消防車が直ちに現場に駆けつけましたが、水の出がなく、ほとんど役に立ちませんでした。これを契機に、翌年1月1日、J・C・フレーザーの招集によりS・J・ガワー宅で最初の会合がもたれ、ボランティア・ファイア・ブリゲード委員会が結成されました。これが居留地消防隊の創始となります。横浜天主堂の鐘をファイア・アラムとして使用し、監視人を置くことが提案され、警報は居留地内の火事では1撃、日本人街2撃、弁天のオランダ領事館一帯3撃、元町方面4撃と決められました。同年末には3台の消防車が到着し、翌1865年(文久5年)1月には市場予定地の背後(現在の横浜都市発展記念館の裏庭あたり)に新築された消防車庫の竣工をもって、そこに移されるとともに、消防隊の規則も制定されました。

1868年(明治初年)の横浜居留地には、1864年(文久4年)創始のボランティア・ファイア・ブリゲードの流れをくむ居留地消防隊の他、3つの消防隊あるいは消防会社があり、協同して消火活動を行っていました。

1882年(明治15年)には、海難救助隊の設置、山手に5台の消防車を配置するなど一層の組織強化が図られました。

※クニフラー商会:クニフラーはハンブルクの出身で、横浜開港後最初に開業した外国商人。のち長崎でクニフラー商会を設立、横浜にも支店を置いた。



明治14年頃の居留地消防隊



「手動消防ポンプ車」
当時は、手動が多かった。

＜監修＞ 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員)
＜出典＞ 横浜開港資料館「横浜もののはじめ考」(P106、107)

報道関係者からの問い合わせ先

開国・開港Y150広報事務局 金垣・麦谷・平手 TEL 03-3403-5139 FAX 03-3403-0508